



小島 智恵 議員
(政風クラブ)



住宅地や市街地でキツネが出没し、エキノコックス感染が懸念されるが法律により捕獲や駆除が困難な状況にある。管内で駆虫薬入りの餌を散布する自治体もある。不安の払拭に向け、以下伺う。

- (1) キツネの生息状況、駆除数
- (2) エキノコックスの調査、検診の状況
- (3) 公園やパークゴルフ場などの管理
- (4) 住宅地や市街地の対策

町長

(1) 町内全域でキツネを確認しており、鳥獣被害実態調査において平成28年度から農業被害が増加していることから、町内に広く生息し、増加傾向にあると認識している。

駆除数は、昨年度は205頭。被害防止計画対象鳥獣に指定した平成22年度からの累計で2035頭。年平均185頭を捕獲。

(2) 北海道では定期的にエキノコックス症媒介動物疫学調査を行って、令和元年度の調査結果では、十勝管内8市町村の区域で捕獲さ

問 キツネ出没による住宅地や市街地のエキノコックス対策を

人間の行動によりキツネを呼び寄せることのないよう周知を図っていく

れた20頭中2頭からエキノコックス症が確認された。今後、調査に検体を提供し、町内の感染状況について確認を行いたい。

エキノコックス症の検診は、小学3年生以上の希望者を対象に集団検診の会場で、一次検診として血液検査を行っている。

エキノコックス症は感染後、潜伏期間が長く、無症状の時期が数年から十数年あるため、5年に1回の検診を勧めている。

平成28年から令和2年までの5年間の受診者数は、「北海道エキノコックス症対策実施要領」に基づき無料で実施している小学3年生と中学2年生が317人。それ以外は455人の合計772人。

このうち1人が超音波検査による2次検診の対象となったが、検査の結果、異常はなかった。

(3) 町管理の公園やパークゴルフコースは、週に1回キツネの餌となるごみ等の回収を清掃作業と併せて行っている。また、パークゴルフコースで動物のふんを見かける

と情報があり、8月から清掃作業を週2回に増やし対応している。公園管理の公園については、相談は寄せられていない。

公園内の砂場は、防護柵で囲っていて、毎年砂の汚染検査も実施。これまで異常が出たことはない。

(4) キツネの餌となる生ごみやペットの餌を外に放置しないこと、餌づけ行為をやめさせるなど、人間の行動によりキツネを呼び寄せることのないよう、引き続き広報紙などで周知を図り、エキノコックス症の正しい情報の提供に努める。

問 新型コロナウイルス感染拡大の長期化による経済対策、ワクチン接種の副反応やリスクについて

答 安全に接種ができるよう情報提供に努める



問 新型コロナウイルス感染拡大により、道内で3度目の緊急事態宣言が発令され、特に飲食・宿泊業は疲弊しており、以下伺う。

- (1) 長期化の影響や実態把握
- (2) スーパープレミアム付商品券の申込み状況、ニーズは。

- (3) 更なる経済対策、事業者支援を。
- (4) 接種後の副反応などの状況、リスクの周知は十分か。時間が経過した場合の症状把握は。
- (5) 中学生以下の予約状況、保護者も含めリスクなど十分な情報周知はされているか。

町長

(1) 9月3日から6日にかけて、町内の13業種27事業所の生の声を聞き、6月と比べ一部販売業等で回復の兆し、石油販売店と運送業では減少となっている。

(2) 限定1万5000セットに対し、2993人、1万5118セットの申込みがあり、抽選の結果、2973人の方に購入引換券を送。昨年の換金状況では幅広い業種で利用された。

(3) 今後は、北海道緊急事態宣言の内容や事業者の声を踏まえ、町内事業者の事業継続を支援するための事業を検討する。

(4) 接種案内に説明書を同封。広報紙やホームページで周知。問い合わせ窓口の電話や対面での説明を行っている。時間が経過した後の副反応については相談コーナーへの問い合わせにより対応している。

(5) 保護者が有効性やリスクを理解した上で予約をしていたかどうか。案内。8月末現在、接種済と予約済合わせて38.3%となっている。